

人工林健全化のため森林整備を行った事例

事業名：環境貢献林整備事業

市町名：安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・安芸北森林組合から人工林健全化の補助申請が提出され採択を行い、市内3箇所を実施した。

今後の展開

・今後も同様の事業を展開する予定。
・安芸北森林組合に手付かずの人工林の候補地についてお願いしている。

取組の内容

- ・事業主体：安芸高田市
- ・実施場所：安芸高田市向原町坂
安芸高田市八千代町下根
安芸高田市甲田町上小原
- ・業務委託先：安芸北森林組合
- ・業務量：3.52ha
- ・業務金額：1,412千円
- ・業務期間：令和5年2月11日～2月28日

取組後の感想

【良かった点】

・人工林健全化事業を行い、健全化が図られた。

【今後の課題】

・土地の所有者が代替わりしており、現所有者の特定や調整が困難になってきている。

【整備前】



【整備後】



鳥獣被害の軽減のため森林を整備した事例

事業名：里山林整備事業（鳥獣被害防止型）

市町名：安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

- ・シカやイノシシなどの野生動物が人里近くまで活動域を広げ、鳥獣被害が拡大している。
- ・里山を利用することがなくなり、また、不在地主も増え、高齢化も進み里山を管理できない状況にある。

今後の展開

- ・地域住民が主体的に維持管理ができるような里山林を目指す。
- ・シカやイノシシなどの野生動物が人里近くまで活動域を広げつつあることから、生物多様性の保全や野生生物との棲み分けがされるなど、一定の緩衝機能を持った里山林に整備し、野生動物との共生を目指す。

取組の内容

- ・事業主体：安芸高田市
- ・実施場所：安芸高田市内
- ・業務委託先：安芸北森林組合
株式会社リビングファーム広島
- ・業務量：19.44ha
- ・業務金額：24,418千円
- ・業務期間：令和4年11月10日～令和5年3月22日

取組後の感想

【良かった点】

- ・バッファゾーンの整備によってシカやイノシシの潜み場所がなくなり、シカやイノシシの出没、農作物被害が減少した。

【今後の課題】

- ・住宅裏等で放置された天然林が大きくなりすぎて、簡単に伐採することができない。
- ・シカやイノシシなどによる鳥獣被害が拡大しているため、野生動物との共生を目指した里山林整備が課題となっている。

【整備後】



【整備後】



中学校と連携しミツマタ植樹を行った事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

- ・ミツマタは和紙(特に紙幣用紙)の原料として、古くから栽培されてきた。しかし、最近では大量生産が容易な西洋紙に市場を奪われ減少傾向を続けている。そこで、我が国固有の良質な製紙原料であるミツマタの生産を復活させる植樹を行うこととした。
- ・この活動を通じて郷土を思い、夢を育み、向上する人づくりを目指す。

今後の展開

- ・元気な森を次世代に残していくため、二ホンジカの食害にあわない樹種であるミツマタを中心に、地元中学校と連携し毎年植栽を行い、広島県最大の一大群落を目指して計画を進める。

取組の内容

- ・事業主体：甲田町資源を守る会
- ・実施場所：安芸高田市甲田町
- ・協力：NPO法人ひろしま人と樹の会
公益財団法人 日本レスリング協会
広島県レスリング協会
フェニックスビジネス(株)
- ・活動内容：参加39名
ミツマタの苗、カワズザクラやミツバツツジの植栽
- ・実施金額：319千円
- ・実施期間：令和5年3月15日

取組後の感想

【良かった点】

- ・令和3年度は新型コロナウイルスの影響があり安芸高田市立甲田中学校と連携して植栽できなかったが、令和4年度については甲田中学校と連携することができ、生徒35名、先生4名と協働で植栽することができた。
- ・植樹会を通じて、森林の大切さや維持していく上での大変さを学んでもらった。

【活動の様子】



【活動の様子】



地域住民と連携して活動拠点の森林を整備した事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

- ・一昨年から事業対象地区における林相に手を
入れて、自然林仕立ての林相を形成してきた。引
き続き継続することで森林経営の標本林となるよ
うに整備する。
- ・この林地において地域の人が自然の中で共に
働く「里山会所」として巾広く活用できるように整
備する。
- ・安心して活動するために、安全快適なバイオ
トイレの設置が必要になった。

今後の展開

- ・多彩で膨大な森林からの産品を最適な活用に
供する。
- ・薪作りや炭焼きなど一般的な活用に加えて、間
伐後の木の枝を粉碎し、それを畑や道にまき土
壌改良やバイオトイレのチップや園芸用肥料に
再利用する。それは、主として子どもたちに生き
た森林を体験してもらう機会や遊びの機会となり、
将来への森林理解者の育成になる。

取組の内容

- ・事業主体：NPO法人百華倶楽部
- ・協力：木の子倶楽部
森のあそび場すくすく
(有)貞尾興業、貞尾克義
- ・実施場所：安芸高田市甲田町
- ・実施量：森林整備7ha(下刈り、除伐、間伐)
施設整備(バイオトイレの建築設置)
林地入口の車道等の整備
- ・実施金額：4,965千円
- ・実施期間：令和4年7月～令和5年3月

取組後の感想

【良かった点】

- ・間伐や歩道整備により森林活動がしやすくなっ
た。
- ・バイオトイレが森林活動の参加者にとって気軽
に安心して利用できるようになった。
- ・作業員や参加者の車両がこれまでより多く駐車
できるようになった。

【活動の様子】



【整備した施設】



地域住民等と連携して城址周辺の森林を整備した事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・先祖が築城した安芸の国の田屋城を探してはるばる鎌倉から訪ねてきた老夫婦が目前にして帰られたという長老の話聞き、山城の地権者として恥じ入り、市の教育委員会にお願いして、やっと登山道入口の市道に田屋城址の縄張図の看板が立った。しかし、背文を越える草木が生い茂り、人々の進入を阻み、イノシシとシカの天国であった。

・「蘇らせる会」を結成して約1年、なんとか主郭まで安全に登れるようになり、「さとやま土師田屋城址を守る会」と名前を改め、広島工大の学生ボランティア達の支援を受けながら「花木に埋もれた自然の森」を目指して、植栽や産業廃棄物を撤去・清掃した。しかし植栽木の殆どをシカに食され、今、害獣との戦いに突入している。

取組の内容

- ・事業主体：さとやま土師 田屋城址を守る会
- ・実施場所：八千代町土師字大坪、大徳寺、天の岩
- ・業務委託先：いなだ工房、春布造園、NPO法人ひろしま人と樹の会、矢賀谷農機商会、緑信造園（50音順）
- ・実施量：約2ha
- ・実施金額：5,275千円
- ・実施期間：令和4年7月～令和5年3月
- ・実施内容：田屋城址の空中伐採
登山道や階段の石造り化
枝垂れ桜、ドウダンツツジ、芝桜の植栽と害獣防止ネットの設置

【活動の様子】



今後の展開

- ・ひき続き田屋城址の整備を行い、戦国時代の水路の復活、井戸の探索、登山道と史蹟の清掃等を継続し遊歩道を完成させ「史蹟探索と森林セラピー」フォーラムを開催する予定。
- ・登山道各所に史蹟の案内や説明版等の看板を立て、転落等の危険箇所を周知する。
- ・持続可能な事業として子供や若者を取込むため登山道に「かぶと虫の森」を整備する。

取組後の感想

【良かった点】

- ・空師による空中伐採によって田屋城址全体が遠くからも見える化された。
- ・伐採した木々を広島工大の学生ボランティア達が山から運び出して、ゴールドフォレスト社が持ち帰り、バイオマス発電に利用されたことである。
- ・天の岩県営林の遊歩道予定地に不法投棄された大量の産業廃棄物を全て撤去したことによって、より安全な森林セラピー遊歩道が可能となったことである。

【整備した施設】



地域の森林一帯を活用するため整備を行った事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

- ・平成25年から里山林の保全管理森林資源の活用について情報を得て、林野庁山村多面的機能発揮事業で「法恩地里山を守る会」を立ち上げ活動してきた。
- ・ひろしま森づくり事業の趣旨に沿って引き続き活動し地区内を住みやすい地域にすることを目標とする。

取組の内容

- ・事業主体：法恩地里山を守る会
- ・実施場所：安芸高田市甲田町下小原法恩地
- ・実施量：集落沿線シカ囲い（総延長2.5km）
簡易休憩小屋の設置
休憩小屋進入路の整備
- ・実施金額：1,960千円
- ・実施期間：令和4年～6年

【活動の様子】



今後の展開

- ・間伐材を利用して簡易休憩小屋を設置し、地域内活動起点とする。また若者が集える活動拠点とする。

取組後の感想

- ・地域の森林一帯を活用するための整備が出来た。

【活動の様子】

